

この写真は、終戦後、舞鶴港（福井県）で大陸からの引揚者を出迎える人々を写したものです。各県の幟や引き揚げ兵士の名前が書かれた幟が見えます。群馬県の幟も中央付近に見えます。

太平洋戦争により群馬県から従軍した軍人軍属は約18万人にのぼり、うち国外へ出た者は約12万人でした。そして、そのうち約4万人が戦死し、下表のとおり約6万7000人が戦後復員しました。

戦後の帰国は、軍人・軍属の復員だけでなく、大陸移民の引き揚げも行われました。特に満州へは多数の移民団を送り出しており、群馬県からの開拓移民は約7000人に及んでいました。そのうち、引き揚げ船で帰国できたのは約3分の1ほどでした。

本県出身者の地域別復員者数（昭和32年10月1日）

地 域	帰 国 者 数
沖縄・南朝鮮	2,000
フィリピン 中部太平洋諸島 小笠原諸島	7,545
中国本土・台湾	19,145
ラバウル方面 ニューギニア ソロモン諸島 セレベス方面	19,141
仏印・タイ ビルマ・ジャワ スマトラ・マレー	9,482
満州・北朝鮮	4,204
千島・樺太・ソ連	5,296
合 計	66,813

〔群馬県史〕通史編7より）

（参考資料）『群馬県史』通史編7 778～783頁  
『群馬県復員後援史』

